

令和4年度
第1回 肝疾患診療連携拠点病院連絡協議会
患者団体よりメッセージ

令和4年7月15日

日本肝臓病患者団体協議会

代表幹事 米澤敦子

日本肝臓病患者団体協議会

1971年 中島弘道医師らにより全国組織
「肝炎の会」 設立
・日本肝臓学会、厚生省へ要望書
提出
・会報紙「肝炎の友」創刊

1975年 中島弘道医師逝去

1991年 2団体の合併により「日本肝臓病患者団
体協議会」(日肝協) 誕生
24都道府県、49患者会が加

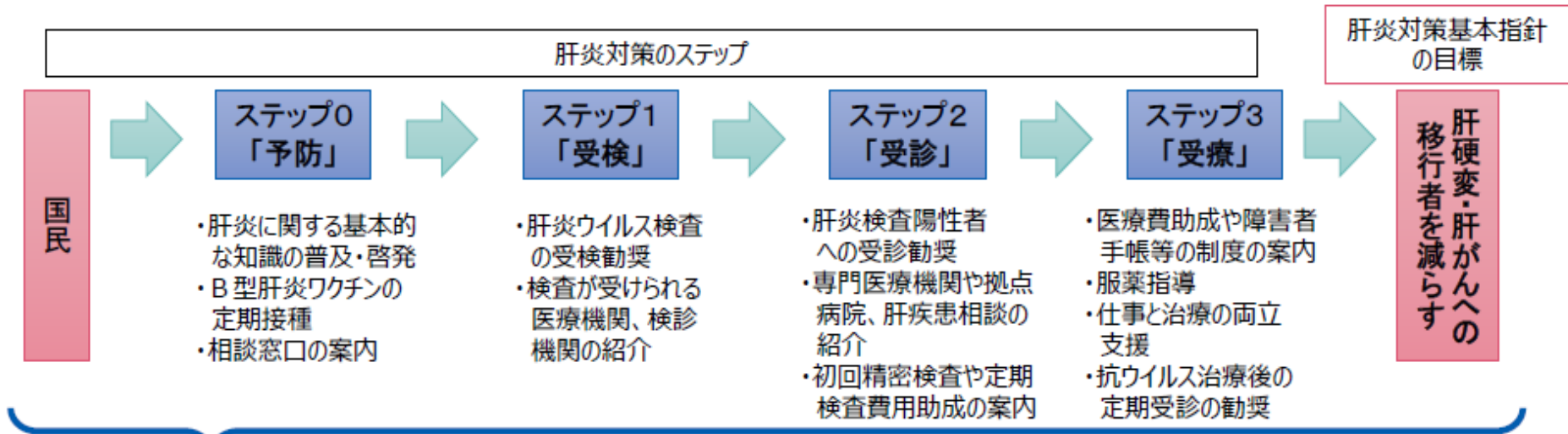
盟

現在 全国に28団体 会員2,500名



肝炎医療コーディネーターについて

「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について」（健発0425第4号平成29年4月25日厚生労働省健康局長通知）参照



肝炎医療コーディネーター

1人で全ての役割を担うのではなく、様々な領域のコーディネーターがそれぞれの強みを活かして患者をみんなでサポートし、肝炎医療が適切に促進される様に調整（コーディネート）する

保健師



患者会
自治会等



自治体職員



職場関係者



看護師



医師



歯科医師



臨床検査技師



薬剤師



身近な地域や職域、あるいは病院等に配置され、それぞれが所属する領域に応じて必要とされる肝炎に関する基礎的な知識や情報を提供し、肝炎への理解の浸透、相談に対する助言や相談窓口の案内、受検や受診の勧奨、制度の説明などを行う。他の肝炎医療コーディネーターとも協力・連携することで、肝炎の「予防」、「受検」、「受診」、「受療」と「フォローアップ」が促進されることが期待される。

さらに、身近な地域や職域で肝炎医療コーディネーターが活動し、肝炎への理解を社会に広げる基盤が醸成されることにより肝炎患者への差別や偏見の解消に繋がることも期待される。

1人で全ての役割を担うのではなく、様々な領域のコーディネーターがそれぞれの強みを活かして患者をみんなでサポートし、肝炎医療が適切に促進される様に調整(コーディネート)する



患者会(患者)も肝炎コーディネーターとなり、**「患者の強み」**を活かして患者をサポートすることが求められている

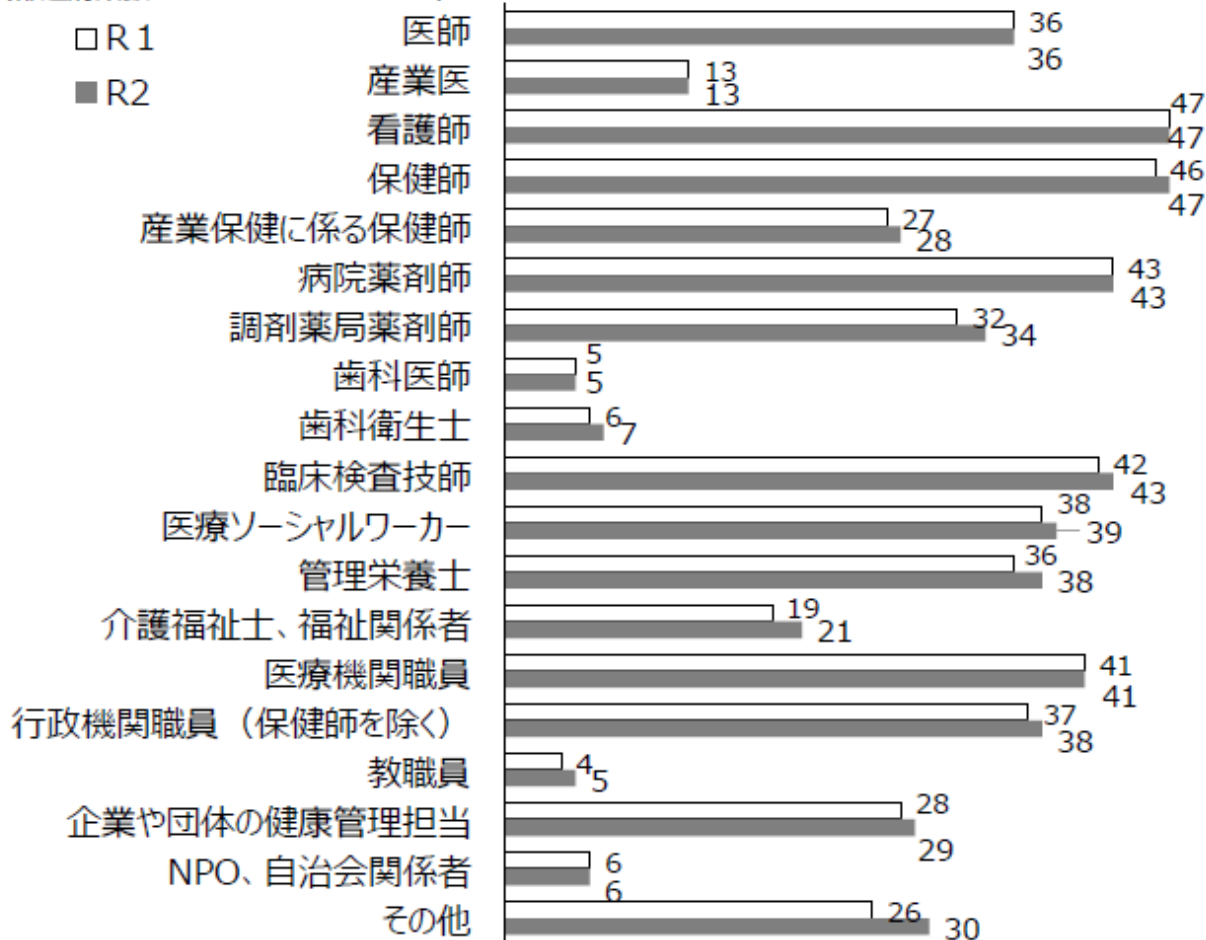
「患者の強み」とは何か

- 1 患者同士で治療経験や偏見、差別などの思いを共有できる
- 2 肝炎患者の経験や思いを医療従事者や一般に伝えられる

肝炎医療コーディネーターの職種（令和2年度）

○肝炎医療コーディネーターの養成者数増加により、全体的に数値が増加している。特に、調剤薬局薬剤師、管理栄養士、介護福祉士、福祉関係者の肝炎医療コーディネーター養成が増加している。

（都道府県数 R1 N=47 R2 N=47）



患者の参画状況

コーディネーターとして養成 **26** (23)
 研修会の講師 **6** (14)

※都道府県数（括弧内はR元年度）

【参考】

肝炎医療コーディネーターの養成及び活動について
 （健発0425第4号平成29年4月25日厚生労働省健康局長通知）抄

5. 肝炎医療コーディネーターの養成

(1) 対象者

- 肝炎患者やその家族が肝炎医療コーディネーターとなり、当事者の視点で支援にあたることも有意義と考えられる。

(2) 内容

- 肝炎医療コーディネーターには、患者等の気持ちを理解し、それに共感する姿勢と技術が求められる。患者の権利擁護、差別や偏見の防止とともに、個人情報の取扱いについても理解する。必要に応じ、患者やその家族の話を直接聞く機会を設けることなども検討されたい。

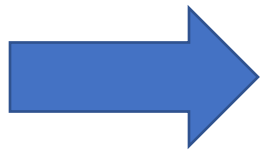
全国の肝炎医療コーディネーター養成研修会

■患者の参画状況

コーディネーターとして養成 26 (23)

研修会の講師 6 (14) (都道府県数、令和2年度 (令和元年度))

患者の経験や思いは当事者だからこそ発信できる



患者を肝炎医療コーディネーターに

できれば患者を養成研修会の講師に